

【事業実績】「古代オリエント」で集まり、つながり、広がる！ミュージアムプロジェクト

1.豊島区コミュニティとの連携強化

(1)豊島区文化施設回遊イベント：豊島区内にある博物館を中心とした文化施設 11 館を巡る回遊イベントを夏と秋に実施した。

【参加者の傾向と反応】 夏回遊イベントアンケート

- ・全体の 55%が豊島区民。
- ・再実施を希望する声は 7 割を超えた。
- ・自由記述からは「いろいろな博物館に行くきっかけになった。」「初めて（博物館を）訪れた」という意見が寄せられた。

(2)豊島区コミュニティへの情報発信

▶豊島区幼稚園、小・中学校へのチラシ送付：教育委員会、豊島区文化デザイン課協力のもと、ワークシートを児童生徒一人ひとりに配布した。

▶豊島区住民、在勤者に向けた情報発信

サンシャインシティオフィスや豊島区庁舎にて、中核館や本事業を紹介するポスターを展示した。

【庁舎まるごとミュージアム展示】

文化デザイン課と連携し、年間を通じて区庁舎内の「庁舎まるごとミュージアム」で展示を行った。時期に併せて定期的にポスターの内容を変更しており、多様な切り口で博物館の魅力をアピールした。

【生放送番組「としま情報スクエア」】

豊島区広報調整課管轄の区政情報生番組に出演し、展覧会だけでなくハンズオン教材などユニバーサルミュージアムの取り組みを紹介した。

▶豊島区視覚障害者・聴覚障害者向け広報

日本点字図書館、豊島区盲人福祉協会、東京都盲人福祉協会の協力のもと、チラシ（点字テープ付き）配架、メーリングリストによるイベント情報発信を行った。

(3)豊島区在住・在勤者向けの取り組み

▶子ども向けイベント開催

サンシャインシティオフィスの共有スペースを活用して、以下のイベントを実施した。

8/20(日)「いきものの絵のひみつ〜タイルにお絵かき」参加 22 名

10/8(日)「ファイアンスのひみつ」参加 24 名

2024/1/21(日)「ガラスのマーブル模様のひみつ」12 名

【参加者の傾向と反応】

- ・豊島区民、在学者の参加率は 2 割となった（R4 年度：1 割強）。
- ・活動内容に対して、4 段階評価で 3.9 と高い評価を得ることができた。
- ・(感想)「作るのはむずかしいけど感覚がさわっていたのしかった」「説明がとてもわかりやすかった」「体験して歴史を学ぶ機会が得られた。またぜひ参加したい。(保護者)」

▶豊島区在勤者向けイベント実施

- ・池袋サンシャインシティ内のオフィス勤務者や豊島区役所職員に向けて、特別ツアーを実施した。
- ・・・サンシャインシティ G 社員向け:10/24(火)10 名、10/25(水)16 名、10/26(木)13 名



回遊をサポートするガイドブックを参加施設と共同で制作



庁舎まるごとミュージアム展示風景



としま情報スクエアに出演し、ハンズオン教材を紹介



子供イベントで研究員が展示解説をする様子



所要時間約 1 時間 約 30 分のツアー前後に自由観覧

サンシャインシティ勤務者に向けては、サンシャインシティ協力のもと、専用アプリによる情報発信を行った。

- ・・・サンシャインシティワーカー向け：7/19(水)15名、7/20(木)7名、10/25(水)3名、10/26(木)5名
- ・豊島区役所職員向け：9/6(水)27名、9/7(木)34名、11/8(水)16名、11/9(木)21名

[参加者の傾向と反応]

- ・全体として、初めてイベントに参加した在勤者が目立ったが、夏の展示解説をきっかけに秋のイベントに参加した在勤者も見られるなど（「前回学芸員さんのお話がとても楽しかったので今回も参加させていただきました。豊島区行政職員」）、リピーターも獲得することができた（13名）。
- ・参加者からは「もっと博物館を応援したい」といった応援も多く寄せられた。



豊島区役所職員向けの展示解説（11/9）

- ・専門家を招いた講演会やワークショップ(以下参照)では豊島区民の優先的受け入れを行った。
7/22(土)「西アジアのいきものを巡る歴史と文化」
10/8(日)「古代の焼き物「ファイアンス」の世界を探る」

▶池袋サンシャインシティ内イベント実施

サンシャインシティ外側エリアで実施される地域の子供向けイベントに参加。展示品の塗り絵など無料体験コーナーを設けた。
実施日：7/1(土)、9/2(土)、11/3(金祝)～5(日)

▶視覚障害者向けイベント実施（9月、11月（2回））

視覚障害者を対象に、レプリカや実物資料を触ってもらいながら展覧会の内容を紹介する展示解説ツアーを開催した。
実施日：9/9(土)4名、11/1(火)1名、11/12(日)5名



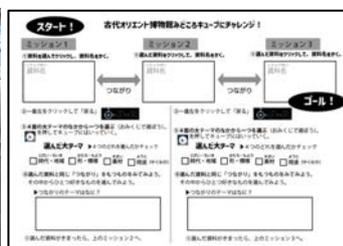
9/9 視覚障害者のための展示解説ツアーにて実物の資料を触る参加者

▶デジタルコンテンツを活用したweb鑑賞プログラムの開発

デジタル鑑賞ツール「見どころキューブ」を子供も活用できるよう、補助ワークシートを制作。博物館の外でイベントを行い、子供に操作してもらいながらプログラムの検証を行った。

[参加者の反応]

- ・ワークシート未使用時において、参加者はキューブの操作性を楽しむ一方で、キューブの特性である「共通するテーマ・関係性から資料を捉える」様子はあまり見られなかった。「資料と資料のつながり探し」を促すワークシートを活用することで、子供が能動的に資料の関連性を探るようになった。



見どころキューブを使用する児童と制作したワークシート

2.ユニバーサルミュージアムのさらなる充実

(1)視覚障害者・聴覚障害者が利用する鑑賞コンテンツの補助教材制作
ユニバーサルミュージアムへの取り組みは、サンシャインシティと情報交換を行うことで、新たに豊島区障害福祉課、豊島区聴覚障害者協会、豊島区登録手話通訳者連絡会とのつながりを得た。今年度は、ハンズオン教材だけでなく、豊島区聴覚障害者協会、豊島区登録手話通訳者連絡会の協力のもと、新たに手話解説動画制作に着手することができた。



バリアフリー情報を加えた博物館道案内動画

(2)視覚障害者に向けた情報アクセシビリティの強化

どなたでも安心して博物館に来館できるよう、①言葉による道案内、②バリアフリー情報を加えた道案内動画を制作した。



やさしい日本語による来館案内

(3)外国籍・外国にルーツを持つ人に向けた情報発信

多言語（英中韓）情報発信や日英表記の地図年表を配布した。新たな取り組みとして、「やさしい日本語」による来館案内を作成した。